

チーム・ロシナンテス

ロシナンテスでは、ご寄付を通じて「医」を共に届ける仲間「チーム・ロシナンテス」のメンバーを探しています！

継続的 寄付

クレジットカード ▶

1,000円から ▶

ロシナンテスのホームページからお手続きください。

銀行口座自動振替 ▶

1,000円から ▶

所定の申込用紙を送付しますのでロシナンテスまでご連絡ください。

(毎月・毎年の定額寄付で長期的な活動ができます)

毎月 1,000円

村の住民96人に手洗い等の衛生知識を学ぶ講習を実施できます

毎月 3,000円

妊産婦さん43人に安心して出産するための施設を提供できます

毎月 5,000円

村の保健医療を担うスタッフ3人を育成できます

毎月 10,000円

360人に清潔な水を届けることができます

今回 のみ 寄付

クレジットカード ▶

1,000円から ▶

ロシナンテスのホームページからお手続きください。

郵便局 ▶

恐れ入りますが、
払込手数料をご負担願います

郵便局備え付けの払込取扱票をご利用いただくか、
下記の口座へお払い込みください。

口座記号:01720-3 口座番号:74330 店名:一七九
加入者名:NPO法人ロシナンテス

銀行口座振込 ▶

恐れ入りますが、
払込手数料をご負担願います

金融機関:福岡銀行 三萩野支店(みはぎの) 預金種類:普通
口座番号:1733240 口座名義:特定非営利活動法人ロシナンテス

ご注意

郵便局もしくは銀行口座へ振り込みされる方で、「領収書」をご希望の場合は必要項目を電話、FAXまたはメールでお知らせください。必要項目①振り込み日 ②振込者情報(お名前、ご住所) ③振り込み金額

ロシナンテスへの寄付は 税の優遇措置(減税)の対象です。

ロシナンテスは北九州市から認定を受けた認定NPO法人のため、寄付金控除等の税の優遇措置(減税)を受けることができます。



認定NPO法人ロシナンテス

〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7F
TEL:093-521-6470 FAX:093-521-6471 ✉info@rocinantes.org

私たちNPO法人「ロシナンテス」の名前は、小説「ドン・キホーテ」に出てくるドン・キホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ！」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。今後もこれを信念として一步一步歩んで参ります。



ANNUAL REPORT

2020.4-2021.3

認定NPO法人 ロシナンテス 年次報告書

2020年度

いつもスーダン、ザンビアの方々を応援してくださり、
誠にありがとうございます。

2020年度、世界で蔓延する新型コロナウイルス感染症は我々が活動する両国においても猛威を振るい多大なる影響がありました。それぞれの国が発表するデータをみれば、日本より感染者数は少なく感染爆発を思わせるものではありませんが、現地からの情報から考えると実際の数字以上に深刻な状況であると想像しています。

日常的に困難に直面しているスーダンやザンビアの方々は、この感染症によってさらに苦境に陥ったような状態となっているにもかかわらず、しばらくの間日本人スタッフが現場に入ることが不可能となり、支援活動を行うことができず焦燥感に苛まれました。しかし日本と現場とのリモートにおける協議を重ね現地スタッフに動いてもらい、マスクや衛生

用品の配布や啓発活動などの感染症対策を行えたことは、今までにない経験となりました。

団体内で感染症対策をしっかりと協議し、専門家の先生のご助言をいただき、2020年度の終わりには日本人スタッフをスーダン、ザンビアに派遣することができました。両国とも2021年度の事業につながる準備を行うことができました。

ロシナンテスは2006年にNPO法人として設立されましたが、今思い返せば組織を立ち上げるのに、当時のスタッフ、理事の方々、そして支援者の方々と本当にお世話になりました。その後、混沌とする世界情勢の中、紆余曲折はありましたが、スーダンで支援活動が継続され、さらに

ザンビアでも事務所を構えて事業を推進することができていることに心から喜びを感じていると同時に、支援をして下さっている皆様方への感謝の気持ちが溢れます。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、日本からの遠隔で事業を行なったことなどで、視野が広がってきたようにも思えます。広角に見渡せる世界観の中で、スーダン、ザンビアの人たちとともに医療体制の整っていない地域に医療を届ける仕組みを構築していきます。新型コロナウイルス感染症の影響で足踏みを経験しましたが、はかrazも遠回りすることで、その後の歩みをしっかりとしたものになりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

スーダン、ザンビア
代表 川原 尚行



ここからまた、
力強い歩みを。



ロシナンテスとは

病院がない。医者がいない。
途上国には、厳しい現実がまだまだ存在します。

ロシナンテスは、そのような地域に暮らす人たちに医療を届ける活動を続けています。
医療施設のない村々を回って医療を提供し、国や地域と協力しながら診療所をつくり、
給水所の整備や学校建設、栄養改善など、包括的な保健事業を整備することで、
現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりをしています。

ひとはみんなの為に、
みんなはひとりの為に



写真／内藤順司

MISSION

〈ミッション〉

使命・役割

病院が無いなどの理由で、
必要な医療が受けられない地域に、
医療が届く仕組みを整備することで、
一人でも多くの命を救う。
そして、誰もが健やかに生きることが
できる環境をつくる。

VISION

〈ビジョン〉

目指す将来像

支援した地域の人たちが、
「医療」を自分たちのものとし、
地域の人たちだけで
医療を継続できる
仕組みが根付いている世界。

VALUE

〈バリュー〉

活動理念

目の前で困っている人を助ける
家族の絆と地域の和を大切にする
ひとはみんなの為に、
みんなはひとりの為に

国外退避、遠隔での事業実施、そして念願の駐在再開を経験した1年

新型コロナの影響で、既存の事業を一時中断、もしくは縮小せざるを得ない状況となりました。スーダン・ザンビアの駐在職員は2020年3月～4月に一旦全員帰国し、日本からリモートで業務を進めてきました。様々な角度から話し合いを重ねてきましたが、駐在再開の方針については、半年以上なんの決断も下せない状態が続きました。

遠隔で進められる部分を進めてきたとはいえ、様々なことが滞ってしまった期間でした。今こそ支援が必要であろうタイミングにも関わらず、思うように動けない、本当に苦しい時期となりました。しかし、事業の一時停止や延期をご報告する中でいただいた多くの応援や励ましの声は、私たちが諦めずに動き続ける大きな原動力となりました。



日本の職員とオンラインでコミュニケーションをとるスーダンのローカルスタッフ



ザンビアのローカルスタッフと久しぶりの再会

当初未知のものであった新型コロナも、情報がアップデートされるにつれ、闘いが長期にわたるであろうことが見えてきました。こうした背景を踏まえ、様々な立場の方にご意見を伺いながら議論を重ねた結果、10月の時点で駐在再開の方針を固めることができました。

11月には出張ベースで8か月ぶりのアフリカへ。その後、ザンビア・スーダンともに2021年2月に、それぞれ事務所を再開することができました。

日本も大変な状況であったにもかかわらず、スーダン・ザンビアへ想いを寄せ続けてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。

スーダンにおける新型コロナの状況

スーダンで初めて感染が確認されたのは、2020年3月12日でした。その後、政府は学校の閉鎖や宗教施設での礼拝の時間短縮、夜間外出禁止令などの措置を講じました。また、その4日後の3月16日には緊急事態宣言を発令し、国境を閉鎖、4月18日には首都ハルツームにてロックダウンがなされました。5～6月頃に新規感染者増のピークを迎えましたが、7月以降は段階的に各種制限が緩和され、9月にはすべての行動制限が解除されました。しかしその後11月～12月にかけて第2波が到来し、医療体制はかなり逼迫した状況に置かれます。新型コロナ流行前から医薬品不足が続いていましたが、感染拡大後は更に悪化しています。経済状況が非常に厳しいため、政府はロックダウンを避けていますが、再び学校やモスクなどを含む様々な行動制限が課されました。3月には、連邦保健省が第3波を発表しています。

WHOの統計によると、スーダンの感染者数は30,420名、そのうち死者は、2,095名となっています(2021年3月31日時点)。他国に比べ、一見少ないようにも見えますが、検査体制が確立されておらず、検査施設は都市部のみ、かつ国全体の1日の検査数が数百程度(人口約4,300万人)と、検査を受けられる人自体が非常に限られており、正確な数がとらえられていないのが事実です。

そんな中、COVAX(世界保健機関やGAVIアライアンス、感染症流行対策イノベーション連合が主導し、新型コロナワクチンの公平な分配を目指す国際的な取り組み)や中国からの提供により、2021年3月よりハルツームの病院でワクチン接種が開始されています。



イスラム教の大切な行事の際に、直接集まるのではなく電話で挨拶をするよう促す啓発資料



ザンビアのスーパーでの感染症対策の様子

ザンビアにおける新型コロナの状況

ザンビアでの最初の感染者は、2020年3月18日、ヨロロツバから帰国した夫婦でした。当初感染者の多くは海外からの帰国者で、外国人の病気として捉えられていましたが、25日にはザンビア国内での市中感染が判明しました。その後も隣国タンザニアからの入国者の感染が相次いで確認され、国境の町から少しずつ拡大していきました。政府は速やかに外国からの入国をルサカ国際空港に限定し、渡航者への検疫を課しました。また、慣れないマスクの着用、レストランの営業形態の制限や、バーや映画館など特定の商業施設の閉鎖、公共の集会の人数制限、学校閉鎖などの対策措置を講じました。しかし目立った感染拡大などが見られなかったことから6月以降、各種制限が緩和されました。2021年1、2月に急激な感染者増加のピークを迎えたものの、その後は再び減少傾向となりましたが、引き続き感染対策と経済活動の両立に苦慮しながらの生活を強いられています。

ザンビアの感染者数は87,727名、うち死者1,198名(2021年3月28日時点)。しかしながら、スーダンと同じく、これらの統計がすべての感染をカバーできていないわけではなく、実際はもっと多い数字になると推定されます。

2020年を振り返って

コロナ禍のスーダンと日本で感じた新たな気づき



スーダン事業部
岩吹綾子

今年度は駐在員の退避に始まり、新型コロナによる影響を大きく受けた1年でした。新たな感染症に対する人々の対応や情報量の地域格差を目の当たりにしました。そんな中、日本の皆様からのご支援により2回の新型コロナ対策支援事業を実施することができました。また、駐在員が日本で勤務していたことにより、全国の皆様とオンラインイベントでお会いできたことは貴重な機会となりました。2021年2月より駐在を再開し、今まで以上に地域に根ざした活動を行っていきたいと思います。ロシナンテスの活動にご協力、ご支援いただき感謝申し上げます。

仲間とともに困難を乗り越えた1年



スーダン事業部
イブティサム

新型コロナの影響が社会に広がる中、ロシナンテスも多く課題に直面しました。コロナ禍では、多くの政府機関が出勤者数を50%に抑え、州間移動を禁止するなど、活動が制限される状況が続きました。さらにスーダンでは、2019年の革命に続く政治改革、市民デモの継続による主要道路の封鎖、インフレーション、インターネット障害、停電や断水なども活動の障壁となりました。困難な状況でしたが、オンラインを活用し、日本・スーダン間で連絡を取り合い業務に取り組みました。今後も仲間と協力して活動していきたいです。

現地で働けることの喜びを再確認



ザンビア事業部
田中悠太

2020年度の半分以上を日本からのリモートワークで過ごしました。現在は、ザンビアでの駐在を再開しておりますが、現地で働けることがどれだけ恵まれているかということを日々感じながら生活を送っています。他職員やザンビア人スタッフと共に困難を乗り越えられたことに感謝いたします。しかしながら、実施するはずができなくなってしまったこともたくさんあります。昨年抱えた悔しさをバネに、今後も皆様からのご支援ご声援を無駄なく、現地に届けられるように尽力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

経験したことのない1年



ザンビア事業部
グリフィン

2020年は新型コロナの影響で、事業を展開するには非常に難しい1年となりました。移動も制限され、電話を使うコミュニケーションが増えました。その一方で、事業地の診療所のスタッフや村の人々と頻りに連絡を取り合うことで、結びつきを強くすることができたとも感じます。また、このようにしっかりと関係を続けていくことで、事業地に暮らす人々にマザーシェルター建設等の私たちの事業がしっかりと続いていくことを証明することができたと感じています。このような状況下でも、できる限り地域に貢献できたことを嬉しく思います。

ロシナンテスの活動

「スーダン事業」

コロナ禍でより厳しさを増す
スーダンの人々に寄り添う。

スーダンの国土の大半は砂漠ですが、その広大な砂漠には、診療所も井戸もない村々が点在しています。こうした地域に医療や清潔な水を届けることで、人々の暮らしを改善していきます。



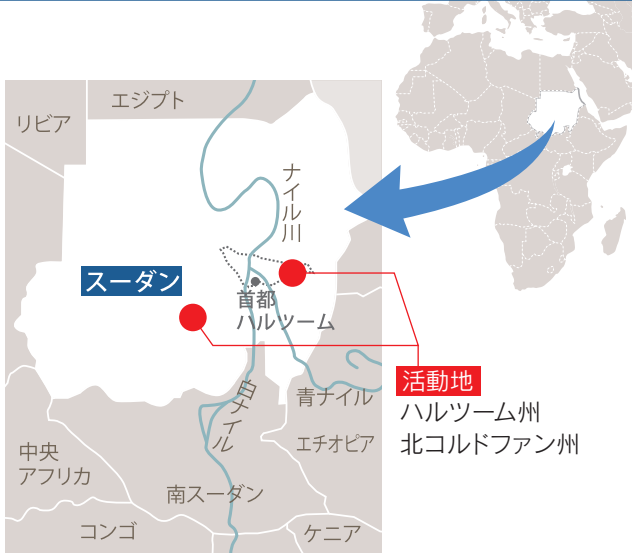
現地ボランティアや村のリーダーで構成されたチーム

新型コロナ対策支援：衛生用品の配布	
期間	2020年7月10日～11日
地域	北コルドファン州オムサマーマ村
内容	新型コロナに関する情報提供及び衛生用品の配布
対象	オムサマーマ村の住人約750世帯（3750名）
現地パートナー機関／SIDO	(Sub-Sahara International Development Organization)



村落部では、マスクもなかなか手に入りません

新型コロナ対策支援：衛生用品の配布	
期間	2020年9月13日～15日
地域	北コルドファン州オムサマーマ村、ロカッブ村、アブーアラシ村、オムカジェック村
内容	新型コロナに関する情報提供及び衛生用品の配布
対象	地域住民約1200世帯（6000人）
現地パートナー機関／SIDO	(Sub-Sahara International Development Organization)



01 新型コロナ対策支援 「村落部で感染を広げないために」

ロシナンテスは、事業地である北コルドファン州の4つの村で新型コロナの対策支援活動を実施しました。医療や水・衛生環境の脆弱な村落部においても正しく感染予防ができるよう、啓発と物資支援を行いました。

現地に潜む様々なリスク

スーダンには、潜在的に感染症が広まりやすい様々なリスクがあります。

1. 従来からの生活様式

スーダンでは、皆で大皿を囲み、フォークや箸ではなく手を使って食事をするのが一般的です。また、挨拶では同性同士がハグをしますし、多くのイスラム教徒はモスクで集団での礼拝を行います。

2. 感染症に関する知識や情報の不足

村落部において、テレビやスマートフォンで情報収集ができる人は限られています。そのため、新型コロナそのものや、感染対策などの基本的な情報も入手できていない人が多く存在します。

3. 市民の生活困窮

スーダンの経済状況は、今なお非常に厳しい状況です。インフレ率は上昇し続けており、2021年2月時点では前年比330%にも上りました。給与は変わらない中物価上昇が続き、人々の生活は日に日に厳しくなっています。正しい感染予防の知識があっても、生活苦により、マスクや石鹸が購入できない人もいます。

4. 各地で生じるデモ

2019年の政変以降、各地でデモが頻発しています。2020年6月末のコロナ禍においても、100万人規模の真の民主化を求めるデモが発生。この他にも、小規模なものを含め市民によるデモ活動は年間を通して行われていました。報道では、大勢の人がマスクを着用せずに集まり、大声を出している様子も見受けられました。

活動内容

1. 新型コロナに関する情報提供

それぞれ750世帯（約3750人）、1200世帯（約6000人）を対象に、啓発活動を行いました。これまで実施してきた給水所建設後の住人向けのトレーニング等は、集会形式で行ってきましたが、今回は密集による感染を防ぐため、巡回車とスピーカーを利用し、村中を回りながら情報をアナウンスする形式をとりました。啓発には、スーダン保健省が公開している情報を活用し、新型コロナの基本情報、手洗いやソーシャルディスタンスを含む感染対策、感染時の対処法などを広めることに注力しました。

2. 衛生用品配布

保健省のアドバイスの下、診療所、小学校、一般家庭を対象に、マスク、石鹸、ハンドサニタイザーの配布を行いました。情報提供と同時に必要な衛生用品を寄贈することで、住民が得た知識をもとに、直ぐに実践に移すことにつなげるためです。

3. フォローアップ

情報提供を複数回繰り返すことによって住人の意識と行動変容を促すことができると考え、2回目の活動地にもオムサマーマ村を加え、同村で再び同じ情報提供を行いました。

支援の新たな形を模索

都市部から村落部へ人が移動することによるウイルスの伝搬を防ぐため、今回はロシナンテスや現地パートナー職員による村への訪問を控えました。代わりに、北コルドファン州の保健省職員、保健省による研修を受講した現地ボランティア、村のリーダーで構成されたチームが活動を実施しました。SNS通話やメールなどのオンラインツールを活用することで、現地の人を軸とした、遠隔での支援活動の新たな形ができたのではないかと思います。

02 水事業 「安全な水が命を救う」

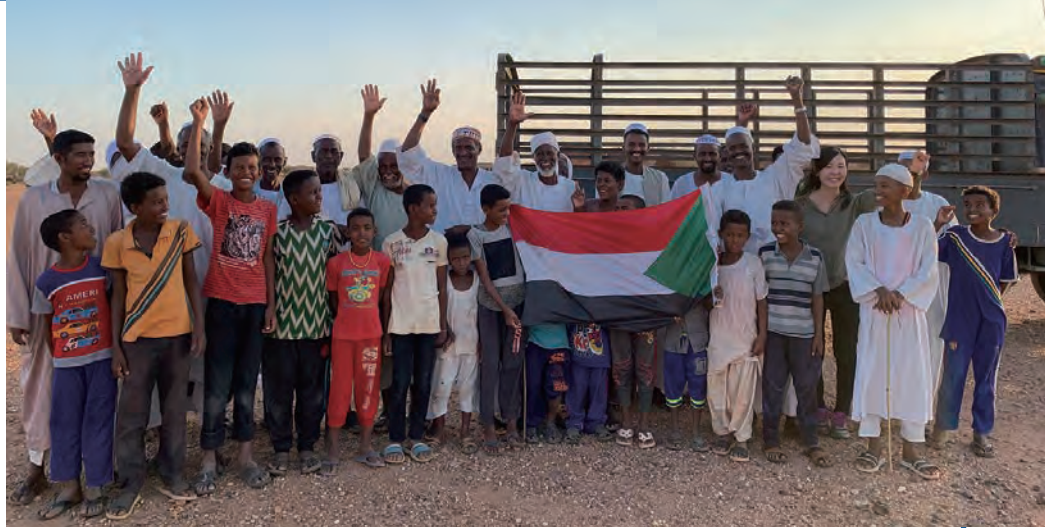
ロシナンテスが建設したワッド・シュウェイン村の診療所での水不足を解消するため、地域の水源であるハフィール（ため池）の水量確保と水質改善を目指すハフィール改修事業。新型コロナの影響で延期となっていた本事業を、年度内に再開することができました。

水くみに4時間… 厳しい乾季の状況

乾季になると干上がってしまうことが大きな課題であるワッド・シュウェイン村のハフィールですが、干上がる時期は天候に左右されるため、年によって大きく異なります。先シーズンは2020年4月までもっていましたが、今シーズンは2020年12月頃には水がなくなっていました。



ロバで水くみに訪れた少年



人が集まることを避けるために、車での啓発活動を実施



村落部で不足している衛生用品を配布

ハフィールの水が干上がった後、近隣住民は、ほかの村からくる給水車の水をハフィールの6～7倍の金額で購入していました。しかし今年は経済悪化とガソリンなどの燃料不足の影響もあり、ロバに乗り、周辺の村まで往復約15km、4時間ほどかけて水くみに行っている状況です。

ハフィールとは

河川のような表層水や、井戸などの地下水がない地域で利用される雨水貯水用池のこと。雨季の6月～9月に降る貴重な雨水を貯水し、残りの乾季に飲料水、生活用水として活用する仕組みです。

活動内容

下記を実施するため、2020年度は、掘削可能なエリアを確認するための複数個所の試掘を実施しました。過去に岩盤に行き当たり深く掘れなかったエリアなどもあるため、専門家とともに調整を行っています。

1. 水量の確保

既存のハフィールを再掘削することで、乾季の間干上がらないだけの水量を貯められる深さを確保します。診療所や周辺の人々が清潔な水を利用できるようにし、

ひいては診療所の運営を軌道に乗せることを目指します。

2. 水質の改善

家畜用水飲み場を別途設置し、ハフィールをフェンスで囲い動物が侵入できないようにすることで、動物の排泄などで水が汚染されない環境を作ります。また砂ろ過フィルターを設置することで、現地ですべての限りの水質の改善を図ります。



試掘した穴の周りで会議

ハフィール改修事業	
期間	2021年2月事業再開～進行中
地域	ハルツーム州シャルガニール地域 ワッドアブサーレ区ワッド・シュウェイン村
内容	ハフィール改修事業及び啓発活動
対象	ワッド・シュウェイン診療所及び 近隣住民2,000人及び家畜8,000頭
現地パートナー機関／	水資源省、ハルツーム州水公社

ロシナンテスの活動

[ザンビア事業]

母と子の未来を守る。
2年目のザンビアで
母子保健事業を本格稼働。

ザンビアの村落部では、
診療所へ行くのに歩いて何時間もかかる村も多く、
出産には様々な危険が伴います。
事業を通して、安心して出産できる環境を整えます。



01 新型コロナ対策支援 「学校での感染対策をサポート」

ザンビアでは、新型コロナウイルスの影響で、2020年4月から小学校～大学に至る全ての学校が閉鎖されていました。ザンビアの学校は1月始まりのため、生徒たちは、新しい学年が始まって数か月で学校に通えなくなっていました。その後新型コロナの概要が少しずつ見え始めると、6月から進級卒業試験のある7年生、9年生のみ、10月からは全学年の登校が再開されました。

しかし村落部の学校では十分な感染症対策ができておらず、またマスクがないことで学校に通えない子どもたちも出てきていました。そのためロシナンテスでは、事業地にある5つの小学校を対象に、衛生用品とマスクの寄贈を行いました。

活動内容

1. 衛生用品配布

ロシナンテスの事業地がある中央州から在ルサカ日本大使館へ、学校再開に

あたって必要となる感染症予防のための衛生用品寄贈の要請がありました。このリクエストに応じる形で、現地スタッフが中心となり、液体石鹸、手洗い用の蛇口の付いたバケツ、アルコール消毒液、非接触型体温計、コロナに関する予防啓発ポスターを各学校へ配布しました。

2. 啓発活動

高学年の生徒を中心に、正しい手洗い方法のデモンストレーションを全校生徒の前で行い、手洗い習慣を子どもたちに身に付けてもらうことを目指しました。また、ポスターを用いて、校長先生や教員から感染回避に関する講話も行われました。

3. マスク配布

学校再開に伴い、政府の指導によって学校への通学にはマスク装着が義務付けられています。しかし、行政が支給したマスクの数は足りておらず、購入が難しい家庭の生徒は登校できないでいました。今回の寄贈では、長期利用を見据えて紙ではなく布製のマスクを寄贈しました。また、市販のものではなく現地のテラーに依頼し、一つ一つ手作りで縫製してもらいました。スピード感が求められる中で、2週間程度でこの枚数を仕上げられるのか心配もありましたが、無事に製作を終えてくれたザンビアのテラーの皆さんにも感謝します。



新型コロナ対策支援：衛生用品寄贈

期間	2020年10月6日～8日
場所	ザンビア共和国中央州チサンバ郡ムワブラ地域
事業内容	小学校への衛生用品の寄贈
対象	ムワブラ地域の小学校5校

新型コロナ対策支援：マスク配布

期間	2020年11月5日～11月26日
場所	ザンビア共和国中央州チサンバ郡ムワブラ地域
事業内容	生徒及び教職員へのマスクの寄贈
対象	ムワブラ地域の小学校5校 合計約2400名

1. 寄贈品の使い方をレクチャーするローカルスタッフのグリフィン
2. 配布するマスクのカウント・仕分けを行うスタッフ
3. 代表の生徒へマスクを配布

02 母子保健事業 「安心して出産できる環境を」

事業地であるムワブラ地域には簡易的な診療所（ヘルスポスト）があります。この診療所ではお産を取り扱っていますが、入院できる施設はありません。そのため、妊婦さんたちは、出産予定日に診療所に向かうしかありません。しかし、診療所が自宅から遠いことや、陣痛が始まってから移動するのが難しいことから、自宅出産を選ばざるをえない家族が多くいます。

また待機できる施設がないため、出産直後に自宅に帰らざるを得ず、産後検診を受診していないお母さんたちが多くいます。

こうした状況を改善するために、出産前後に滞在できる施設「マザーシェルター」の建設を行う本事業。新型コロナの影響で延期となっていました。スーダン同様こちらも年度内に再開することができました。順調に進めば2021年10月には建設を完了し、マザーシェルターとして使用開始できる予定になっています。

地域住民とともに

マザーシェルターの建設に際しては、早い段階から住民による建設委員会を設立しました。新型コロナの影響で事業の進捗が遅れる中、地域住民からの労働力提供により、建設資材となる砂やレンガを集めてもらいました。住民自らの手で建設したという自覚を持って、完成後も長く大切に使用してもらうために、今後も地域住民参加型のプロジェクトを目指します。



診療所の様子（新型コロナ流行前）



住民の協力で集められた資材



マザーシェルターの完成予定図

マザーシェルター建設事業

期間	2020年7月1日～進行中
場所	中央州チサンバ郡ムワブラ地域
内容	出産前後の妊産婦が待機し、安全に出産するための施設の建設
対象	ムワブラ地域の妊産婦

ロシナンテスの活動

[日本国内]

オンラインでのイベント開催の試み

ウェブ会議ツールの使用やYouTube配信など、初めてのことで試行錯誤の日々となりましたが、スーダンの水事業や始まったばかりのザンビア事業、新型コロナウイルスの状況についてなど、1年間で12回のオンラインイベントを開催しました。皆さまのあたたかい応援のおかげで、コロナ禍でも私たちの声をお届けし、ご支援者の

皆さまからの声を聴く場を確保することができました。ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

オンラインでイベントを開催するようになって、参加者の皆さまにロシナンテスの「R」を作ってもらって記念撮影をする、という文化がうまれました！(笑)

外部とのコラボレーション【オンライン】



オンラインに場が移ったことにはいい面も悪い面もありましたが、居住地域を気にせず外部の方とイベントができるようになった、という点は大きなメリットになりました。

[4月30日]
ハチドリTALKs

ロシナンテスは、新しく誕生したハチドリ電力のパートナー団体になりました。

ハチドリ電力はCO2ゼロの自然由来100%の電気を届け、月々の電気代の1%が社会を良くするために活動する人や団体の支援に、もう1%が再生可能エネルギー発電所の増設につながるという

新しい仕組みを展開するエネルギー事業です。ハチドリ電力契約者が支援先としてロシナンテスを指定することで電気代の1%がロシナンテスへ寄付されます。

このパートナーシップを記念して開催された「ハチドリTALKs」では、理事長の川原が、ハチドリ電力を主導する株式会社ボーダーレスジャパンの代表取締役社長田口様と対談しました。

[11月14日]
#環境問題に私たちができること

ハチドリ電力とともに取り組んでいる環境問題について考えるために開催した「#環境問題に私たちができること」では、スーダン事業部の岩吹がスーダンの環境



問題についてお話ししました。もともと砂漠地帯の多い国ではありますが、気候変動の影響でその厳しさが増していたり、逆に雨季の洪水が深刻化していたり、停電が年々ひどくなっていたりと、様々な影響が出ています。こういった問題について、参加者の皆さまとともに考えました。

[5月24日]
つながるちからフェス

アンター株式会社主催の大規模ライブ配信イベント「つながるちからフェス」に理事長の川原が登壇しました。物理的につながることが難しい今、孤独に戦う医療界を元気づけることをコンセプトに、約60名の医師が様々なテーマでトークを行いました。川原は「海を渡ったドクターたち」というテーマで、他2名の海外で活躍する医師の方々と共にお話ししました。

[6月20日]
コロナ時代に僕たちは、これから、どう生きていくか

NPO法人あおぞら主催のオンラインイベント「コロナ時代に僕たちは、これから、どう生きていくか」に理事長川原が登壇しました。あおぞら代表の葉田甲太先生ナビゲートの元、これからの時代の生き方、私たちのできることを、参加者の皆さまと対話しながら探る3時間となりました。

ご支援者様向けの新企画をスタート

●少人数の座談会

私たちが発信するばかりの一方的なコミュニケーションだけではなく、ご支援者の皆さまの声を聴き、相互に交流していける場を作りたいと考え、少人数での座談会を数回開催しました。15周年企画についてご相談する会では、支援者の目線で様々なアイデアをいただき、いくつかは実現するに至りました。事業や広報活動につい

の忌憚なきご意見をお伺い出来る場としても貴重だと考えていますので、今後も不定期で開催していきたいと思います。

●ロシナンテの小部屋

いつもロシナンテスを応援してくださる皆さまに、アフリカのこと、スーダン・ザンビアのこと、そしてロシナンテスのことをもっと知ってもらいたい!ということで、



毎月10日(ロシ6+4)に動画をお届けする企画「ロシナンテの小部屋」をスタートしました。ご支援者様限定でお送りしているメールにてYouTubeのURLをお届けしています。届いていないよ!という方は、ロシナンテスまでお知らせください。

- #001 おすすめのアフリカ体験●前編/後編
- #002 とんでもスーダン
- #003 きてみてザンビア
- #004 駐在員の生活
- #005 理事長川原によるスーダン講座(初級編)
- #006 日本から見るスーダンの今
- #007 会報「遠回り」24号解説
- #008 スーダン・ザンビアの年末年始
- #009 入ったばかりのインターンさんが知りたいこと
- #010 東北の今を聴く

東日本大震災から10年

3月10日、オンラインイベント「東北の今を聴く」を開催

ロシナンテスは、2011年の震災発生翌日から2016年までの5年間、主に宮城県名取市、岩沼市、亶理町で、巡回診療やがれき撤去、寺子屋や健康農業と題したコミュニティ活動などを行いました。

2021年3月10日、その活動を支えて下さった3人のゲストをお招きし、活動当時の想いや現在までの復興の様子などをお話いただくオンラインイベントを開催しました。ロシナンテスとともに活動して下さった皆さんが、この10年間のどのように復興に向き合い続けてきたのか。たくさんの貴重な経験や視点が詰まったお話をお伺いできました。そのうちのいくつかをご紹介します。.....

宮城県名取市亶上地区に暮らす
南部さん

地域にとって大事な神社や災害公営住宅の周りの写真を参加者に見せながら、以下についてお話を頂きました。

- ・地域の暮らしとつながりを取り戻す取り組みや難しさ(小学校の再開、結成し二年目になる町内会)
- ・震災の経験を生かした街づくり(町民で津波到達時にどこまで内陸に逃げられるかシミュレーション、垂直避難できる

階段の各棟設置、企業の支援を受けプライベートを守る避難所用の段ボールを備える)

- ・これからの世代に向けて(水や自然と安全に触れ合う暮らしを取り戻すため 関上大橋の近くでSUP(スタンドアップパドル・サーフィン)体験開催)



宮城県岩沼市玉浦地区に暮らす
谷地沼さん

ロシナンテスが岩沼市で活動を始めた際に知り合い、ともに復興支援に取り組んできた谷地沼さんは、ロシナンテスの活動に刺激をうけ、ご自身でも多様な活動を開始されました。

- ・散り散りになってしまっていた町の人々が、必要なつながりを取り戻せるように田植えや芋植えなど新たなイベント開催
- ・復興委員会やNPOの立ち上げ、コミュニティや居場所作り、CSR(企業の社会

的責任)として支援を名乗り出る企業と現場の様々なニーズを繋ぐ活動
・子どもたちに自助と共助を身に付けてもらうための避難訓練の浸透



それぞれのお話をお伺いした後、日本各地で同様の被害を防ぐために何が重要か、参加者の皆さまも交えて話し合う時間も設けました。

お二人を始め、被災された方々や被災地に携わる方々が、もう同じ被害を繰り返さないという強い思いや、様々な目標を持ち復興に取り組まれている事を改めて感じました。10年間、地域や復興にひたむきに向き合ってきたからこそ、鋭い視点や発想、取り組みは、明日起こるかもしれない災害で私たちが身を守るために欠かせないものです。幅広く共有して活かすすべを引き続き模索していきたいと思います。

ご支援いただいた法人の皆さま

新型コロナの影響で、思うように活動の進められない1年ではございましたが、
そんな中でも多くの皆さまの支えがあり、2020年度中に事業を再開することができました。
ご協力いただきました皆さまへ心から感謝申し上げます。

【 支 援 企 業 】	
医療法人うかじ小児科医院	株式会社ブランカ
エクスリンク法律事務所	ペンション結(ゆい)
エムスタイルジャパン株式会社	北海道通信ビル株式会社
有限会社お菓子のリーフ	公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団
株式会社オレスコーポレーション	マルシン産業株式会社
税理士法人 神尾アンドパートナーズ	有限会社丸裕
北村技術株式会社	株式会社安川電機
貴布禰総本宮 貴船神社	YASKAWA未来クラブ
グリーン在宅クリニック	友幸会
グンゼラブアース倶楽部	弓皮ふ科
西東みはる税理士事務所	宗教法人 臨済宗妙心寺派
株式会社産業保健コンサルティングアルク	株式会社ワーキングハセガワ
弁護士法人清水法律事務所	有限会社ワークス
昭立産業株式会社	
株式会社鈴木工務所	【 サ ー ビ ス 協 力 等 】
熊本県立済々黉高等学校	風に立つライオン基金
株式会社セキュリティサンクス	サンビット株式会社
一般社団法人仙台市医師会	品川イーストクリニック
SOMPOちきゅう倶楽部(SOMPOホールディングス株式会社)	株式会社 STYZ
タステック・レントリース株式会社	株式会社セールスフォース・ドットコム
トップ保険サービス株式会社	ソフトバンク株式会社
内藤医院	つなぐ書店
医療法人社団撫子高松メディカルクリニック	TMコミュニケーションサービス株式会社(お宝エイド)
株式会社ハローディ	

※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご支援をいただいている企業、団体の皆さまを掲載しております。

ご支援いただいた法人の声

トップ保険サービス株式会社
スマイル推進チーム リーダー 安武 和也 様

社会貢献は本業である



弊社は社会貢献を本業と位置付けています。そのうえで、「自分たちがお手伝いすることで、弱った人、マイナスになっている人の支えになれるか」ということを社会貢献活動の基準にしています。認定NPO法人ロシナンテス様は、弊社の手が届かないことに向き合っており、弱っている人を全力で助けていらっしゃいます。同じ北九州の法人として、少しでもお力添えできればと応援させていただいております。

エクスリンク法律事務所
弁護士 吉田 郁子 様(ロシナンテス顧問弁護士)

未来に貢献できること



ロシナンテスさんは、アフリカでの医療支援の一環として、水事業に取り組んでおられます。井戸建設等により、子どもたちが水汲みから解放され、学校に通えるようになると伺い、未来への好循環を生み出す素晴らしい活動だと感じました。大変な困難がある中で、活動を継続してこられたロシナンテスの皆様の熱い思いと行動力には、圧倒されっぱなしです。寄付や、法律顧問という仕事を通じて、私も微力ながらアフリカの未来に貢献できることを大変ありがたく感じています。

チーム・ロシナンテスのメンバーが 2,000名を超えました！

月1,000円からの継続支援で応援いただく「チーム・ロシナンテス」の仲間が、
2020年3月末の時点で2,009名になりました！

皆さまの応援に心より感謝申し上げます。

その他にも、たくさんの方が活動を応援くださいました！



支援者の声

久保宮 玲於奈 様(10代)



高校で、国際協力について考えるエスベラントクラブという会を作り、社会奉仕活動を行っています。その活動の一つとして、ロシナンテスにも参加するようになりました。「小さな支援でも必ず役に立つ」ということを実感でき、私たちクラブの励みになっています。世界には本当に苦しんでいる人がたくさんいます。みんなの力で1人でも多くの人を助けられればと思いますし、私たちと同じ、若い世代の人に関心をもってほしいです。



支援者リレーションズチームより

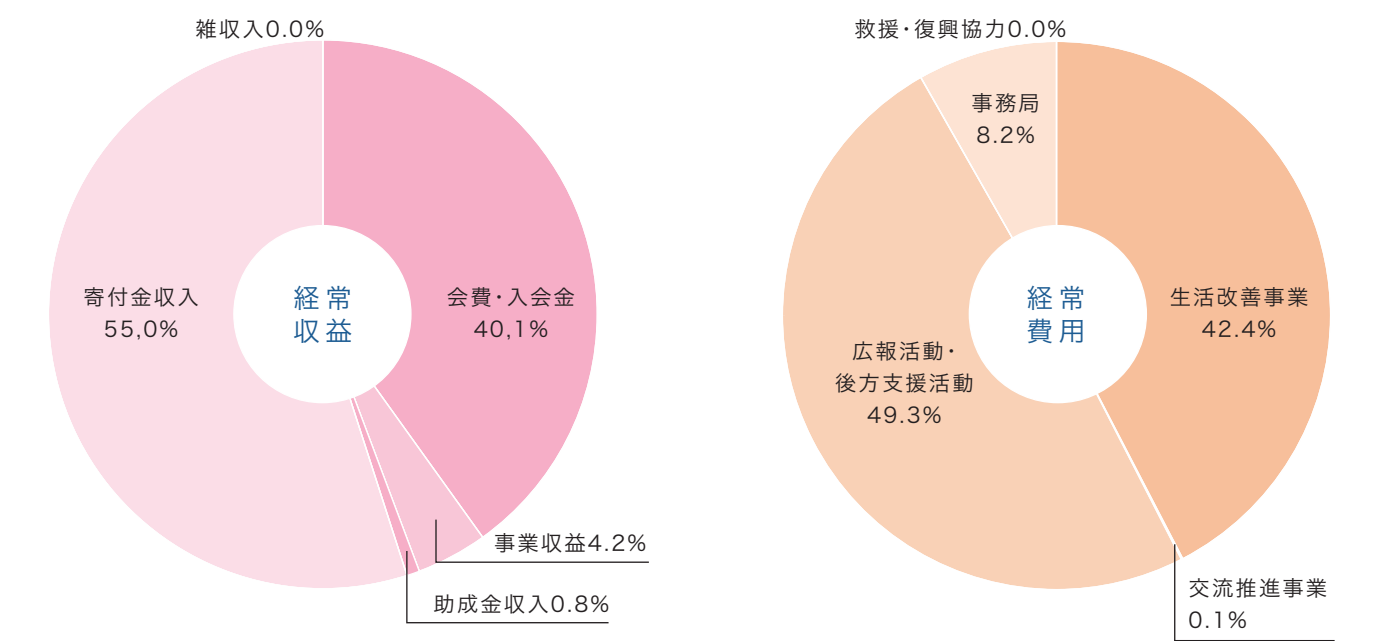
ご寄付の際、メッセージを添えてくださる事があります。励ましのお言葉には元気をもらい、「私の代わりにアフリカの人たちを助けてほしい」「年金生活なので少額だけれど」「子供が生まれたことで初めてアフリカの子供たちに思いを馳せた」などのメッセージはその方の想いや生活が想像され、ご支援を活かす責任を感じます。

2020年はコロナ禍の折、給付金の一部をご寄付へという方がいる一方、環境が変わり支援方法を変更せざるをえないという方もいらっしゃいました。しかし、どちらの場合も私の中から湧いてくる感情は同じで、ただただ責任と感謝でした。私も一人の力では何もできません。皆さまのお陰で活動を支える仲間に入ることができています。本当にありがとうございます！

亡くなった妻の意思を引き継ぎたいと継続寄付のお申し込みをくださった方や、母だったらきつこうと思う、と遺産の一部をご寄付くださった方など、今年も印象的な出会いが数多くありました。また「日本は幸せ、きれいな水も飲めて、お医者さんにすぐかかることができる。アフリカの子供たちにも届けてあげたい。」「私たちができない

ことをしてくれてありがとう。体に気を付けて頑張って、応援しています。」など、日々支援者の皆さまからの声にたくさんの力をいただいております。コロナ禍で大変な状況にあるにも関わらず、アフリカや、私たちにまで心を寄せてくださるそのあたたかい想いに、毎回胸が熱くなります。こうした支援者の皆さまとのご縁に心より感謝申し上げます。

[会 計 報 告]



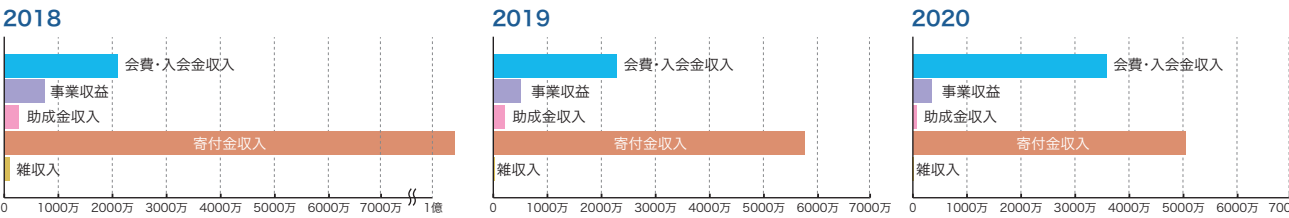
活動計算書

(単位:円)

經常収益	①会費・入会金収入	36,629,386
	②事業収益	3,824,771
	③助成金収入	687,470
	④寄付金収入	50,200,799
	⑤雑収入	4,584
	經常収益計(A)	91,347,010
經常費用	海外活動費	
	①生活改善事業(保健医療事業、水衛生事業)	50,616,521
	②交流推進事業(人材交流事業)	107,134
	国内活動費	
	③救援・復興協力事業	0
	④広報活動・後方支援活動	58,870,574
	⑤事務局	9,848,439
	經常費用計(B)	119,442,668
為替差損(C)		4,667,704
經常外費用(D)		1,078,000
法人税(E)		127,600
当期正味財産合計額(A-B-C-D-E)		-33,968,962
前期繰越正味財産額		219,949,037
次期繰越正味財産額		185,980,075

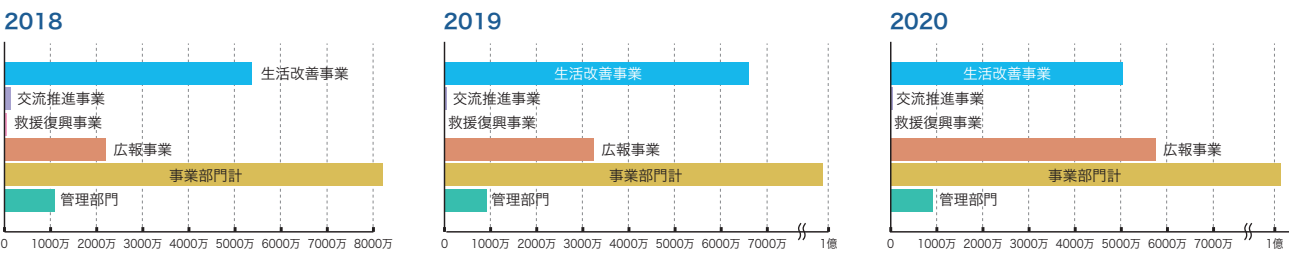
収益推移 (単位:円)

収 益	2018	2019	2020
会費・入会金収入	21,228,384	23,399,400	36,629,386
事業収益	7,898,273	5,096,180	3,824,771
助成金収入	3,600,000	3,000,000	687,470
寄付金収入	141,272,333	58,996,637	50,200,799
雑収入	1,124,015	5,860	4,584
合 計	175,123,005	90,498,077	91,347,010



費用推移 (単位:円)

費 用	2018	2019	2020
生活改善事業	53,656,596	65,169,291	50,616,521
交流推進事業	1,519,158	471,612	107,134
救援復興事業	88,882	0	0
広報事業	28,114,289	33,260,404	58,870,574
事業部門計	83,378,925	98,901,307	109,594,229
管理部門	10,466,866	9,340,392	9,848,439
合 計	93,845,791	108,241,699	119,442,668



正味財産推移

2019年度増減額	2019年度決算 正味財産額	2020年度増減額	2020年度決算 正味財産額
-21,799,103	219,949,037	-33,968,962	185,980,075

〔 組 織 体 制 〕

役 員 一 覧

理 事 長	川 原 尚 行
副理事長	竹 中 賢 治

理 事	片 山 憲 一
理 事	高 山 義 浩

理 事	武 藤 義 博
理 事	海 原 六 郎
理 事	星 野 賢 一 郎

監 事	樋 上 弥 寿 子
監 事	神 尾 康 生

組 織 概 要

名 称	特定非営利活動法人ロシナンテス
略 称	認定NPO法人ロシナンテス
設 立	2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)
所 在 地	〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号 北九州市立商工貿易会館7階

〔 2020年度 メ デ ィ ア 紹 介 一 覧 〕

新 聞

■**北海道新聞**(7/29)「スーダンへの医療支援に関心を」8/22カムイミント塾告知

■**長崎新聞**(7/31)「スーダン医療支援 諏訪小で体験語る」7/30長崎市立諏訪小学校での特別授業

■**あさひかわ新聞**(8/4)「カムイミント塾 講師の川原尚行さん 長年、スーダンで医療活動」8/22カムイミント塾告知

■**読売新聞**(8/18)「電気料金から毎月寄付 「ハチドリ電力」販売開始」寄付先としてロシナンテスを紹介

■**西日本新聞**(8/21)再起withコロナ「古里で感染症対策に協力 北九州に一時帰国 アフリカ医療支援の川原医師」川原理事長インタビュー記事

■**北海道新聞**(8/25)「ゴールは現地で医者育成 スーダンで医療支援 福岡のNPO理事長 旭川で講演」8/22カムイミント塾での講演

■**毎日新聞**(8/25)「北九州市・産業医科大・北九州商議所 飲食店支援へ産学官連携 感染防止策の手引書作成」北九州市感染症対策専門官として川原理事長がコメント

■**あさひかわ新聞**(9/1)「カムイミント塾 スーダンで精力的な医療活動続ける川原尚行さんが講演」8/22カムイミント塾での講演

■**読売新聞**(9/1)「感染防止 産学官がタッグ」北九州市感染症対策専門官として川原理事長がコメント

■**毎日新聞**(9/12)「「水の惑星」で生きる」毎日新聞・元村有希子論説委員のコラム「窓をあけて」に川原理事長インタビュー記事

■**毎日新聞**(10/19)「ラグビー部で主将務め成長」教育面(教育の森)「学校とわたし」に川原理事長インタビュー記事

■**毎日新聞**(11/11)「母校で社会貢献訴え 小倉高校開校記念講演会 「ロシナンテス」の川原理事長」11/5福岡県立小倉高等学校での講演

■**毎日新聞**(12/24)「アフリカで医療活動 ロシナンテスの川原医師「現地完結の仕組み目標」母校の九大医学部 オンライン講義」12/23九州大学医学科でのオンライン特別講義

テ レ ビ

■**KTNテレビ長崎**(7/30)「KTN Live News it!」同日の長崎市立諏訪小学校での特別授業

■**NHK北九州放送局**(21/1/20)「ニュースブリッジ北九州」ほか地域ニュース枠 同日の北九州市立黒崎中央小学校での特別授業

ラ ジ オ

■**FM福岡**(5/6)「MORNING JAM」

■**FM福岡**(8/12)「MORNING JAM」

■**J-WAVE**(11/13)「～JK RADIO～TOKYO UNITED」

■**FM福岡**(21/1/27)「MORNING JAM」

W E B ※新聞等掲載分は除く

■**M3.com メンバーズメディア**(2020/4～)連載「アフリカ発、日本人医師が語る医療のカタチ」

■**時事通信、AfricaQuest**他(10/9)新型コロナ対策でザンビアの小学校へ衛生用品を寄贈、小学校再開に合わせて

■**産経ニュース、朝日新聞デジタル**他(10/9)認定NPO法人ロシナンテスがハチドリ電力に参加。自然エネルギーを通じた寄付で活動を拡大。寄付ナビ(12/1)ロシナンテスってどんな団体？川原尚行さんに医療活動のリアルを聞いてみた

雑 誌 ・ 広 報 誌 ・ 書 籍 ・ そ の 他

■**SDGsの視点に立った地域教材資料集「わくわく!北九州」**／北九州市教育委員会 北九州市にゆかりのある人物として川原理事長を紹介 ※北九州市の小学校3・4年生向け教科書副読本
■**ライナーネットワーク**／株式会社ライナーネットワーク 8/22「第4回カムイミント塾」告知 ※北海道旭川市のフリーペーパー

■**月刊北海道経済** 2020.8月号／株式会社北海道経済 8/22「第4回カムイミント塾」告知

■**AFRICA** 2020 AUTUMN Vol.60／一般社団法人アフリカ協会 「JICA現地レポート:読み書きと算数能力の向上への取り組み」ザンビア事業部・田中悠太がJICA海外協力隊時代の活動に

ついて寄稿

■**目で見えるWHO** 2020秋号 No.74／公益社団法人日本WHO協会 「NGO紹介」川原理事長による寄稿

■**FRAU**(SDGs MOOK) 2020年11月27日発売／講談社 寄付先の一つとしてロシナンテスを紹介

■**国際協力キャリアガイド2020-21**／株式会社国際開発ジャーナル社 「国際協力NGO/NPO」の一つとしてロシナンテスを紹介

■**国際開発ジャーナル** 2021年1月 NO.769／株式会社国際開発ジャーナル社 「東洋医学で独自の価値を生み出せ」川原理事長のインタビュー記事

■**新しい公民**／株式会社浜島書店 2021年3月1日発売 表紙ほかでロシナンテスの活動を紹介 ※中学校社会科の資料集

■**中京と福岡 CF連楽帖** 2021.03 第2号／中京福岡県人会 ロシナンテス正会員・坪根治氏によるロシナンテスの活動紹介の記事 ※県人会会報臨時別冊

■**AFRICA** 2021 SPRING Vol.61／一般社団法人アフリカ協会 「ロシナンテスのスーダンそしてザンビアでの支援活動」川原理事長による寄稿

〔 2020年度 講 演 会 ・ イ ベ ン ト 実 績 〕

講 演 会 等

川 原 尚 行

■(4/30)ハチドリ電力「ハチドリTALKs」(オンラインイベント登壇)

■(5/24)アンター株式会社「つながるちからフェス」(オンラインイベント登壇)

■(6/20)NPO法人あおぞら「コロナ時代に僕たちは、これから、どう生きていくか」(オンラインイベント登壇)

■(7/30)長崎市立諏訪小学校(長崎県)

■(8/22)旭川しんきん地域振興基金「第4回カムイミント塾」(北海道)

■(9/19)公益財団法人佐賀県国際交流協会・JICA九州(佐賀県)

■(9/29)九州大学入学式代替イベント(福岡市)

■(9/30)一般社団法人西日本工業倶楽部 第1219回講演会(北九州市)

■(10/6)明治大学法学部講義(オンライン講義)

■(10/23)熊本県立済々黉高等学校(熊本県)

■(11/5)福岡県立小倉高等学校(北九州市)

■(11/12)トヨタ自動車九州株式会社(福岡県:会場およびオンライン)

■(11/12)友幸会(北九州市)

■(12/23)九州大学医学科特別講義(オンライン講義)

■(21/1/20)北九州市立黒崎中央小学校(北九州市)

■(21/3/6)日本国際保健医療学会西日本地方会(オンライン学会でのシンポジウム登壇)

■(21/3/27)北九州ゾントクラブ(北九州市:会場およびオンライン)

岩 吹 綾 子

■(11/14)ハチドリ電力「ハチドリ電力と考える#環境問題に私たちができること」(オンラインイベント登壇)

田 中 悠 太

■(21/1/22)北海道札幌市:市立札幌藻岩高校特別授業(オンライン授業)

広 報 イ ベ ン ト ※すべてオンラインイベント

■(5/7)キャリア説明会

■(5/23)駐在員報告会(ご支援者様限定)

■(5/30)水事業報告会

■(6/13)2019年度活動報告会

■(7/8)新型コロナウイルス対策支援報告会(ご支援者様限定)

■(7/22)ザンビア活動報告会

■(7/30)スーダン活動報告会

■(8/20)スーダン活動報告会

■(8/26)活動報告会

■(11/5)キャリア説明会

■(21/1/16)ロシナンテス活動報告会

■(21/3/10)宮城で育まれた防災訓練、再び形になった海辺のまちー東北の今を聴く